

地元商店・企業をもっと元気に！

元気な街の基本は「地元の商店・企業が元気！」であることですが、稲城市内でも駅が無い平尾・坂浜地区では商圏の地盤沈下が懸念されます。



自然環境を重視した上で、旧住宅の建て替え問題や、土地区画整理を推進し、新しい住民の取り込みを図ります。人口増加＝消費増大＝商圏繁栄の図式になるよう長期的な計画を立てていきます。

また、商圏形成のためにも企業誘致を積極的に推進し、結果として色々なことを実現するための税収UPにつなげます。また商店街への各種助成制度の見直しを行います。

【編集後記】『代替案なき反対』は結果を出すことが目的だけでなく、問題にかかわる人々に修復不可能なほど深刻な亀裂を生んでしまうものです。市民の代表である議会は、市民の思いを乗せた反対運動を「煽る」「利用する」のではなく、行政との対立・前向きな検討を推進し進めるべき存在だと考えます。

市議会決議の透明化を図る！

どうしてそのような結論に至ったのか、議決結果の○×報告だけでは市民に対しての説明が足りないと感じています。

各議員ないし会派がその結論に至ったプロセス、提案する代替案を発信することを奨励します。

支持者還元のため、政党のための政治ではなく、稲城市民のための政治を実現することを目指します。

道路・歩道の補強改修を！

街路樹の成長などで、盛り上がり危険になった歩道が散見されます。また、市内には狭い主要幹線も存在しています。

必要な公共工事として、市内の歩道・道路の整備を推進します。特に、車通りが多いバス路線であるのに車道・歩道ともに幅員が狭い「天神通り」などを中心に改修・整備・補強の検討を進めるべきだと考えます。

いなり 《稲成会と一緒に市政参画してみませんか？》

当紙面で述べていることを主体とした会の理念・方針に御賛同いただける方であれば、年齢・性別・住所・支持党派・宗旨など一切問わず大歓迎です。

年会費や活動義務等はありません。

会員に御登録いただいた方には、当紙『稲成起風』や各種報告書、イベントのご案内等を届けさせていただきます。また、稲城市内外の出来事に対して、市民目線で思った率直な御意見を頂戴いただき、HPや「稲成起風」を通じて世間に発信させていただきます。

当会は会員一人一人のボランティア精神によって運営されております。会報配布の御協力、新規会員の御紹介、活動資金の御寄付等を募集しております。なお、入会時に御提出いただいた情報は個人情報として厳重管理し、上記の各種お届け行為等にのみ利用させていただきます。



稲成会 会章
『実った稲穂と御稲荷様』

【稲成会の名称由来】

- ① 稲穂が実る自然豊かに残る土地『稲成』
- ② 稲城市政へ提言し成果を求めていく『誠』
- ③ 文化と歴史溢れる稲城の代表的氏神『お稲荷』

以上の意味合いを含め、稲城らしい象徴として緑の稲穂と赤い稲荷が会章となっています。

『稲成会』入会申込書

★お名前 _____ ★ご記入日 _____ 年 月 日

★ご住所 _____ ★TEL () _____

★Eメール _____

御記入ありがとうございました。以下いずれかの方法で提出をお願いいたします。

- ① 直接手渡し (042-331-6373 に御連絡ください、受け取りに伺います)
- ② FAXにて042-331-6373 稲成会事務所(稲城市平尾3-3-6)へ御送信ください。
- ③ inari-kai@inagi.info へメールしてください。(上記事項を文面にしてください)

い な り き ぶ う 稲成起風



http://inagi.info/inari

鈴木誠
政治活動報告
2011年2月8日発行
創刊号

後援会 討論資料

鈴木誠(無所属)が「28歳男の漲る力」で稲城を変える！

《『稲成起風』創刊の御挨拶》

一年と少し前のある日、参加した地元会合の最中に人身事故が発生してしまいました。119番を鳴らし、救急隊の到着を待つ。私の住む平尾地区は、稲城市内で消防署から最も遠い立地、救急車の到着時間は非常に遅い…。

時間との戦いである緊急医療においては大変致命的な憂慮すべき事態。私はこの時、病院搬送の付き添いしかできないという自分の無力さに呆れてしまいました。

このことをキッカケに「今からでも遅くない。もっと安心安全で、住みたい、住んでいたい、子供に『心から誇れる街・稲城』をつくりあげる姿を見せたい！」と強く願うようになり、自分にできることは何でもやろうと決意しました。

その後、地元消防団へ入団して日々の訓練に励み、自主防災組織本部委員・自治会役員として地域活動に勤しみ、認定防災士・赤十字救急法救急員の資格を取得するなど時間が許す限りの自己研鑽を続けてまいりました。

しかし、その中では「一市民が出来る限界」も感じ、周囲の方々に悩みを相談したところ、温かい御支援と御賛同をいただき、稲城を市政から良くするための『稲成会』が発足し、この度の当紙『稲成起風』の創刊へと至りました。

日々の暮らしに一番近い政治＝市政に対し、主権者である私たち市民がより関心を持ち、街をより良くする新しい風を起こすキッカケとして当紙をお読みいただければ幸いです。

長文稚文で申し訳ありませんが、お付き合いのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成二十三年二月 鈴木誠



鈴木誠(すずまこと)
1982年5月、山形県東置賜郡生まれ。
おうし座・O型・28歳 177cm / 78kg
好きな人物: 土方歳三、上杉鷹山
趣味: 郷土史研究・登山・バドミントン

平尾 はなぶさ幼稚園卒。
法政大学経済学部卒業。経済学士。
2005年4月より、編リクルートメディア
コミュニケーションズに勤務し、東京
多摩地区担当営業職の後、WEB広
告制作リーダー職。昨冬に希望退職。
現在はWEB制作請負を中心に行う。
平尾・坂浜地域を中心とした稲城市
全域で諸活動に打ち込んでいる。
妻と娘(1歳10カ月)がおり、今年7月
には第2子が誕生予定。現在は両親
と3世代での同居生活。
抱える住宅ローンは残り30年余り…

- ・『いなぎ歴史探検』制作管理者
- ・平尾宅地分譲自治会事務局長
- ・平尾宅分自主防災組織本部委員
- ・日本防災士機構 認定防災士
- ・日本赤十字社 救急法救急員
- ・稲城市消防団第六分団団員
- ・稲城市学校体育館個人開放指導員
- ・稲城市バドミントン連盟員・強化選手



稲城市内の隅から隅まで自転車で走り回って、実際に見て、人と話して気がついた多くの問題…。このまま放ってはおけません。

緊急医療・防災・防犯を強化する！

子供から高齢者まで、すべての住民が安心安全に暮らせることが『住みたい街』の最優先課題です。



現在、稲城市には消防署が1カ所のみ、警察署にいたっては市内に無いという現状です。1秒でも早く救急車が到着し、火事などの災害を最小限で食い止められるように、稲城市消防本部・東京消防庁・川崎市消防局の連携強化を図ります。また、神奈川県警との協力体制構築、または市内への警察署・大型交番誘致を推進し、防犯力向上に努めます。

地域高齢化に対応した施設を設置！

他自治体同様、稲城でも高齢化問題が起こっています。特に高齢者の単身世帯では日々不安を抱えながらの暮らしを余儀なくされています。



稲城市や住宅公社等が所持・管理する空き地等を活用し、これまでで生活して来た、慣れた地元で暮らしていける「高齢者住宅」や、訪問介護の拠点を近場に設置することを推進します。

子育て・教育環境の整備促進！

日本の、地元の未来を背負う子供達。地元愛溢れた人間に育てるためには教育環境の充実が欠かせません。



稲城市の子育て・教育水準の向上を図り、子供たちが大人になった時に「稲城で子供を育てたい！」と言えるような環境づくりを推進していきます。特に老朽化する第二中学校の改修は急務であると考えます。合わせて全世代を対象とした生涯学習、地域におけるスポーツ文化活動の奨励を官民一体で推進すべきだと考えます。

無縁社会を有縁社会に変える！

子供の虐待や高齢者の孤独死が叫ばれて久しいですが、高齢者問題も子供の教育も、古き良き日本型の地域コミュニティが解決の糸口を握っています。



隣近所の付き合い・助け合いを、地元自治会の努力にのみ頼らず、行政側がバックアップすることで住民間の負担を軽減できます。地域のことは地域で守り決められる環境・制度設計を推進します。自治会や民生・児童委員の権限を高めることも考えられますが、学校や神社仏閣などを中心とした地域グループや、ボランティア活動を行うグループの奨励を図ることも大切だと思います。

集合住宅の建て替えを円滑に！

『多摩ニュータウンのゴーストタウン化』問題は平尾地区にも押し寄せています。また、将来的には向陽台・長峰・若葉台地区でも同じ問題が発生すると推測されます。



建物の老朽化という避けて通れない課題、建て替え問題に関して障害となる「建替え決議」の賛成が住民全体の8割以上という厳しい法令の緩和を働きかけ、また住民の負担が軽くなるよう行政側の全面的な支援体制構築を推進します。

i バス増便で、利便性を向上させる！

現在市内を周回するi バスは左回り・右回りともに1台ずつ、合計2台しかいないため利用可能本数が少ない中途半端な状態になっています。



バス台数を両回りとも2台ずつ合計4台以上にすることで、現在の倍の本数＝時刻を半分にし、利便性の向上を図ります。その結果、i バス路線周辺の住宅価値が上昇し、新たな住民転入も期待できます。

ふれんど平尾の早期復活を目指す！

行政の手違いにより使用できなくなった『ふれんど平尾』。毎週ふれんど平尾を利用し、また2F郷土資料室の手伝いをしていた身として、とても悔しい思いをしています。



現在、検査費用が予算化されている『ふれんど平尾』。改修の早期実現を推進し、2階に生涯学習施設を、1階には太鼓や合唱、ダンスといった音楽系サークルが活用できるスペースを設置します。また、長期的な計画として、第三文化センターと連動した大規模な建て替えを図るべきだと考えています。

歴史・文化を伝える「資料室」の拡張！

ふれんど平尾にあった郷土資料室は、城山体験学習館の一角に追いやられ、手狭な状態になっています。



稲城市の文化・歴史を伝える総本山が小さいのでは、子供たちに誇りを持った故郷意識を根付かせる本気度が伝わりません。将来的には「郷土資料館」の設置検討を推進していきます。

周辺住民が納得できる土地開発を！

南山問題に端を発した稲城市の土地開発を巡る議論。開発側と周辺住民が納得できる相互意見交換が必要です。



大規模開発では緑地保全を念頭に置いた開発計画を立てる必要があります。誰も音頭をとらない乱開発ほど恐ろしいものではありません。周辺住民と開発側だけではなく、行政や議会の仲立ちも交えて「争いの少ない土地開発」を目標に掲げ、これから始まる上平尾・小田良地区の土地区画整理授業が円滑に進むよう働きかけます。

20年、30年先の将来を見越して考えても、今やらなきゃいけないことがたくさんある！口先だけじゃなく、自ら先頭に立って実践したい。